

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と20年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名 (仮称)第二一般廃棄物最終処分場整備事業	所管	環境クリーン部廃棄物対策課 Tel 2998-9146
-----------------------------	----	------------------------------------

事業目的 (何の為に 行うか)	市内で発生する一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう、安定的な処分計画を構築するため市内に最終処分場を確保する。
-----------------------	--

事業の 具体的 な内容	計画 全体	平成15年10月の仮称一般廃棄物最終処分場検討委員会の報告書を受け、埋立年数約15年、計画埋立容量25万㎡、必要面積5haの最終処分場を目指してきたが、廃プラスチックの処理方法の変更を視野に入れ、最終処分量との整合性を図りながら規模等を検討し候補地を選定していく。
	平成 19 年度	「所沢市仮称第二一般廃棄物最終処分場に関する庁内連絡会議」を設置し、最終処分場の候補地選定作業により候補地を4箇所まで選定。

事業の 推進状況	進捗 率	～平成18年度 候補地抽出	平成19年度 候補地抽出	平成20年度 候補地抽出・ 推進計画等	平成21年度 基本計画策定 等	平成22年度 基本設計等	平成23年度 実施設計等	終了予定年度 平成 28 年度
	見込まれる総事業費(千円)			事業開始からの累計額(千円)			13,283	

H19 経費	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	0	0	8,736	25.8

成果 (結果として どうなったか)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	事業進捗状況	候補地抽出		候補地抽出	100.0
		単位	単位	単位	%

今後の 方向性 (所管の 意見)	◎事業計画の見直しの必要性・・・ * 有り 無し ◎事業実施方法の見直しの必要性・・・ 有り * 無し
	◎総事業費見直しの必要性・・・ 有り (増額 減額 休止 終了) * 無し

今後の 方向性 (二次評 価の意 見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了	
	総合 評価	拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕 終了
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了

平成 20 年度事務事業評価表(公共事業用)

事務事業名	部課コード	050400	TEL	2998-9146
事業コード 050413	(仮称)第二一般廃棄物最終処分場整備事業	担当部課	環境クリーン部廃棄物対策課	
開始年度	平成 11 年度	→	終了年度	平成 28 年度
事業の種類別	<input type="checkbox"/> 土地利用	<input type="checkbox"/> 土木建設	<input checked="" type="checkbox"/> 建築	<input checked="" type="checkbox"/> 補助
根拠法令	①廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ②所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例			
分野別計画・指針	一般廃棄物処理基本計画			
関連・類似事業	一般廃棄物運搬・処分業務委託事業(廃棄物対策課)			
総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル
			中柱	2 適正処理の拡充
			小柱	(2)最終処分場の整備
	・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位 ・実施計画における位置づけ… H19 A H20 A			
行政改革大綱における行動計画への位置づけ	コード		コード	
事業開始の背景	市で保有していた北野一般廃棄物最終処分場が平成17年3月末日をもって埋立が終了となったことから、市内で処分する自区内処理の原則に基づき、市内に新たな一般廃棄物最終処分場を整備する事業である。			

②事業内容	目的(何のために行うのか、具体的に)
	市内で発生する一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないよう、安定的な処分計画を構築するため市内に最終処分場を確保する。
	事業開始後の環境変化(人口推移等の社会経済情勢の変化、自然環境の変化等)と対応
	国がごみ処理方法等の基本方針で中間処理方法の見直しを行なったため、廃プラスチックの処理方法の変更を視野に入れ、その整合性について検討して行く。
	事業の具体的な内容及び実施方法
	平成15年10月の仮称一般廃棄物最終処分場検討委員会の報告書を受け、埋立年数約15年、計画埋立容量25万㎡、必要面積5haの最終処分場を目指してきたが、廃プラスチックの処理方法の変更を視野に入れ、最終処分量との整合性を図りながら規模等を検討し候補地を選定していく。
	H19 「所沢市仮称第二一般廃棄物最終処分場に関する庁内連絡会議」を設置し、最終処分場の候補地選定作業により候補地を4箇所まで選定。

③事業の進捗状況	事業の進捗率(%)	総事業費(予)(千円)														
	<table border="1"> <tr> <th>～平成18年度</th> <th>平成19年度</th> <th>平成20年度</th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>終了予定年度</th> </tr> <tr> <td>候補地抽出</td> <td>候補地抽出</td> <td>候補地抽出・推進計画等</td> <td>基本計画策定等</td> <td>基本設計等</td> <td>実施設計等</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> </table>	～平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	終了予定年度	候補地抽出	候補地抽出	候補地抽出・推進計画等	基本計画策定等	基本設計等	実施設計等	平成 28 年度	
～平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	終了予定年度										
候補地抽出	候補地抽出	候補地抽出・推進計画等	基本計画策定等	基本設計等	実施設計等	平成 28 年度										
	解決すべき課題とその対応策	H19までの事業費累計(千円)														
	廃プラスチックの処理方法の変更を視野に入れ、敷地面積、埋立容量等を勘案して候補地を1箇所を選定して行く。	13,283														

④経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		975	0	7,290
	決算(見込み含む)		16	0	
	正規職員人件費	0.35 人	3,220	0.93 人	8,736
	公債費				
	事業費合計		3,236	8,736	
	財源内訳	一般財源	3,236	8,736	7,290
		国・県支出金			
		受益者負担金			
		市債			
		その他			
	市民一人当たり(単位:円)		9.6	25.8	

⑤指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H 20	将来目標
	成果分析	事業進捗状況	目標値	候補地抽出	候補地抽出	候補地抽出	処理場建設
			実績	候補地抽出	候補地抽出	実績値の拡大を図る	1
%	達成率	100%	100%				
標	成果指標の設定理由及び目標値の考え方	北野一般廃棄物最終処分場が平成17年3月をもって埋立期間が終了したことから、新たな最終処分場を整備する必要があるため、上記成果指標を設定した。					

⑥一次評価	評価項目	評価内容			
	妥当性	事業の優先度・緊急性	市で保有していた北野一般廃棄物最終処分場が平成17年3月末日をもって埋立が終了となったことから、市内で処分する自区内処理の原則及び安定的な最終処分計画の構築のため、早急に新たな一般廃棄物最終処分場を確保する必要がある。		
	効率性	事業実施手法の効率化及びコスト削減の取り組み	最終処分量を削減するため、ごみの減量化及び再資源化への取り組みを推進している。		
効果・便益	事業に要する費用と効果(便益)の比較	現在、県営及び県外の民間最終処分場に埋立処分を依存しているが、当市の最終処分場を確保することにより、安定的な最終処分とコストの削減が図れる。			
H 20	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)		時期(いつまで)	
目標設定	廃プラスチック焼却についての実証試験の結果により、決定した処理方法を踏まえ、敷地面積、埋立容量等を勘案し候補地を選定する。	候補地を1箇所を選定し、仮称第二一般廃棄物最終処分場推進計画業務を実施する。	平成20年度末		
総合評価	事業計画の見直しの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要有り ⇒	理由	今後のごみ処理方法(中間処理)等により最終処分量が減量した場合には施設規模の見直しも視野に入れた検討が必要となる。	
	事業実施方法の見直しの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し ⇒	理由		
	総合評価	<input type="checkbox"/> 見直しの必要有り⇒(<input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了)	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し		
評価理由	自区内処理の原則に基づき、市内に最終処分場の確保が必要である。なお、候補地や規模、工法等が未定であるので総事業費を算定出来る段階に至っていない。				
評価日	平成20年5月1日	記入者職氏名	廃棄物対策課主幹 宮岡照雄		

⑦二次評価	事後評価	事業の方向性																		
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了																		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了																		
	事前評価	<table border="1"> <tr> <th>部内優先順位</th> <th>非常に高い</th> <th>高い</th> <th>やや低い</th> <th>低い</th> <th>優先度</th> </tr> <tr> <td>見込まれる総計上位目標</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>貢献度</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	部内優先順位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度	見込まれる総計上位目標	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	貢献度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
部内優先順位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度															
見込まれる総計上位目標	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>															
貢献度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>															
	評価理由	<p>廃プラスチックの処理方法や焼却灰スラグの受け入れ先等の変更により最終処分量の変化が見込まれるとともに、国庫補助の要件や地元要望も考慮して最終的な形態が決定される見込みであることなど、現時点では不確定要素もあるが、買収面積等も含めて効率的となるように事業計画を検討された。よって、総合評価は「改善・効率化」とした。</p> <p>予算措置については、施設設計以前の段階であり、本年度措置した推進計画の予算をふまえて「現状どおり」とした。</p>																		

⑧外部評価	《外部評価の実施》	H19 <input type="checkbox"/>	H20 <input checked="" type="checkbox"/>	【下記は平成20年度に実施した評価及び対応です。】
評価				
対応				

⑨環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ	有り	計画コード	323
施策体系	3-2資源循環の促進	施策の方向	3-2-3廃棄物の適正処理	